

段ボール加工専門メーカーNo.1

株式会社トモク



TOMOKU

# 2023年3月期第2四半期 決算説明資料



TOMOKU

2022年11月

東証プライム・札証

3946

**1. 2023年3月期 2Q決算**

**2. 2023年3月期通期見通し**

**3. 成長戦略と足元の取り組み状況**

**(ご参考資料) ESG・サステナビリティへの取り組みなど**



「包む」をイノベーションする。

## 2023年3月期 2Q決算



**コロナ禍からの経済活動の回復と住宅事業の収益改善で、増収増益。**

**売上高105,553百万円（前年同期比+7.3%）、営業利益2,842百万円（同+7.6%）**

**売上高……段ボール製品値上げ、海外事業の伸長、などもあり、堅調に推移。**

**営業利益……住宅事業が玉善ののれん解消で赤字幅縮小となり、全体で増益  
運輸事業は、コスト増を増収でカバーし、微減益に留まる。**

**段ボール**

**売上高55,663百万円（前年同期比+12.0%）  
セグメント利益2,674百万円（同△12.6%）**

**住宅**

**売上高28,031百万円（同△1.3%）  
セグメント損益△563百万円（同+640百万円）**

**運輸倉庫**

**売上高21,858百万円（同+7.7%）  
セグメント利益1,086百万円（同△1.9%）**

**売上・営業利益は期初計画未達だが増収増益を達成。  
為替差益計上で経常利益は+31.7% 営業利益率2.7%で前年同期比横ばい。**

(百万円)

	2022年3月期 1Q・2Q	構成比 (%)	2023年3月期 1Q・2Q	構成比 (%)	前年 同期比 (%)	期初計画 2022 /5/9	期初計画比
売上高	98,382	100.0	<b>105,553</b>	<b>100.0</b>	<b>+7.3</b>	107,000	△1,447
売上原価	83,197	84.6	<b>89,469</b>	<b>84.8</b>	<b>+7.5</b>	-	-
売上総利益	15,184	15.4	<b>16,083</b>	<b>15.2</b>	<b>+5.9</b>	-	-
販売費及び 一般管理費	12,543	12.7	<b>13,241</b>	<b>12.5</b>	<b>+5.6</b>	-	-
営業利益	2,641	2.7	<b>2,842</b>	<b>2.7</b>	<b>+7.6</b>	3,000	△158
経常利益	2,767	2.8	<b>3,644</b>	<b>3.5</b>	<b>+31.7</b>	3,200	+444
親会社株主 帰属四半期 純利益	1,704	1.7	<b>2,369</b>	<b>2.2</b>	<b>+39.0</b>	1,900	+469

原材料高騰で原価率が上昇したが、前期並みの営業利益率を確保。

(百万円)

	2022年3月期				2023年3月期		
	1 Q・2 Q	構成比 (%)	3 Q・4 Q	構成比 (%)	1 Q・2 Q	構成比 (%)	前年同期比 (%)
売上高	98,382	100.0	107,625	100.0	<b>105,553</b>	<b>100.0</b>	+7.3
売上原価	83,197	<b>84.6</b>	88,918	82.6	<b>89,469</b>	<b>84.8</b>	+7.5
売上総利益	15,184	15.4	18,707	17.4	<b>16,083</b>	<b>15.2</b>	+5.9
販売費及び 一般管理費	12,543	12.7	13,016	12.1	<b>13,241</b>	<b>12.5</b>	+5.6
営業利益	2,641	<b>2.7</b>	5,690	5.3	<b>2,842</b>	<b>2.7</b>	+7.6
経常利益	2,767	2.8	6,211	5.8	<b>3,644</b>	<b>3.5</b>	+31.7
親会社株主帰属 四半期純利益	1,704	1.7	4,276	4.0	<b>2,369</b>	<b>2.2</b>	+39.0

# 2023年3月期 2Qセグメント別・前年同期比較（上期）



段ボール事業は、価格転嫁の遅れもあり、利益率が前年同期比低下。

住宅事業は、玉善ののれん解消で上期赤字幅が縮小、収益性改善に寄与。

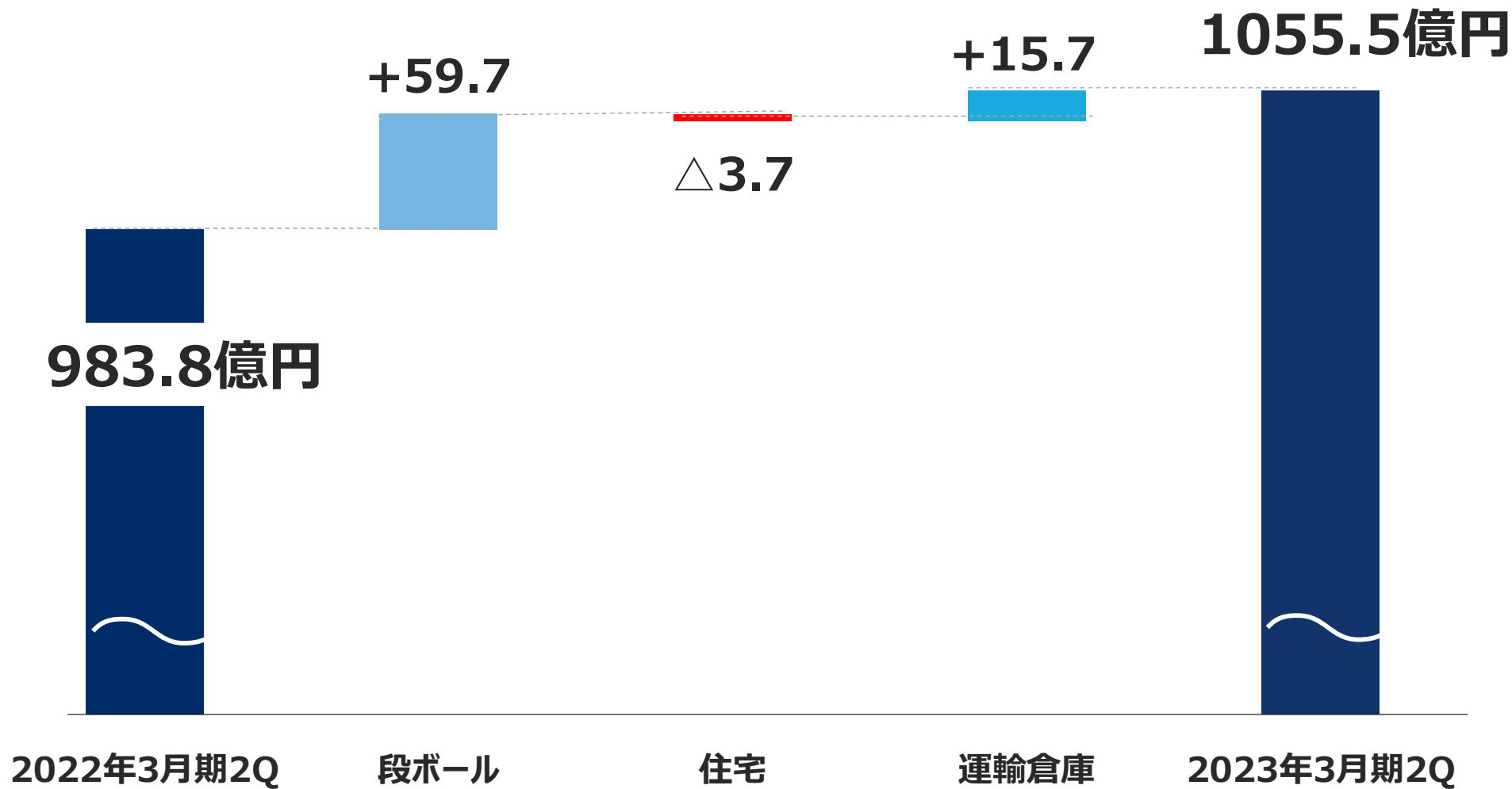
(百万円)

		2022年3月期				2023年3月期		
		1・2Q	構成比 (%)	3・4Q	構成比 (%)	1・2Q	構成比 (%)	前年同期比
段ボール	売上高	49,692	50.5	50,323	46.8	55,663	52.7	+12.0%
	セグメント利益 (利益率)	3,059 (6.2%)	-	2,855 (5.7%)	-	2,674 (4.8%)	-	△12.6%
住宅	売上高	28,399	28.9	39,011	36.2	28,031	26.6	△1.3%
	セグメント利益 (利益率)	△1,203 (-)	-	3,064 (7.9%)	-	△563 (-)	-	+640
運輸倉庫	売上高	20,290	20.6	18,290	17.0	21,858	20.7	+7.7%
	セグメント利益 (利益率)	1,107 (5.5%)	-	300 (1.6%)	-	1,086 (5.0%)	-	△1.9%
合計	売上高	98,382	100.0	107,625	100.0	105,553	100.0	+7.3%

段ボール事業：単価上昇、海外事業の寄与拡大。

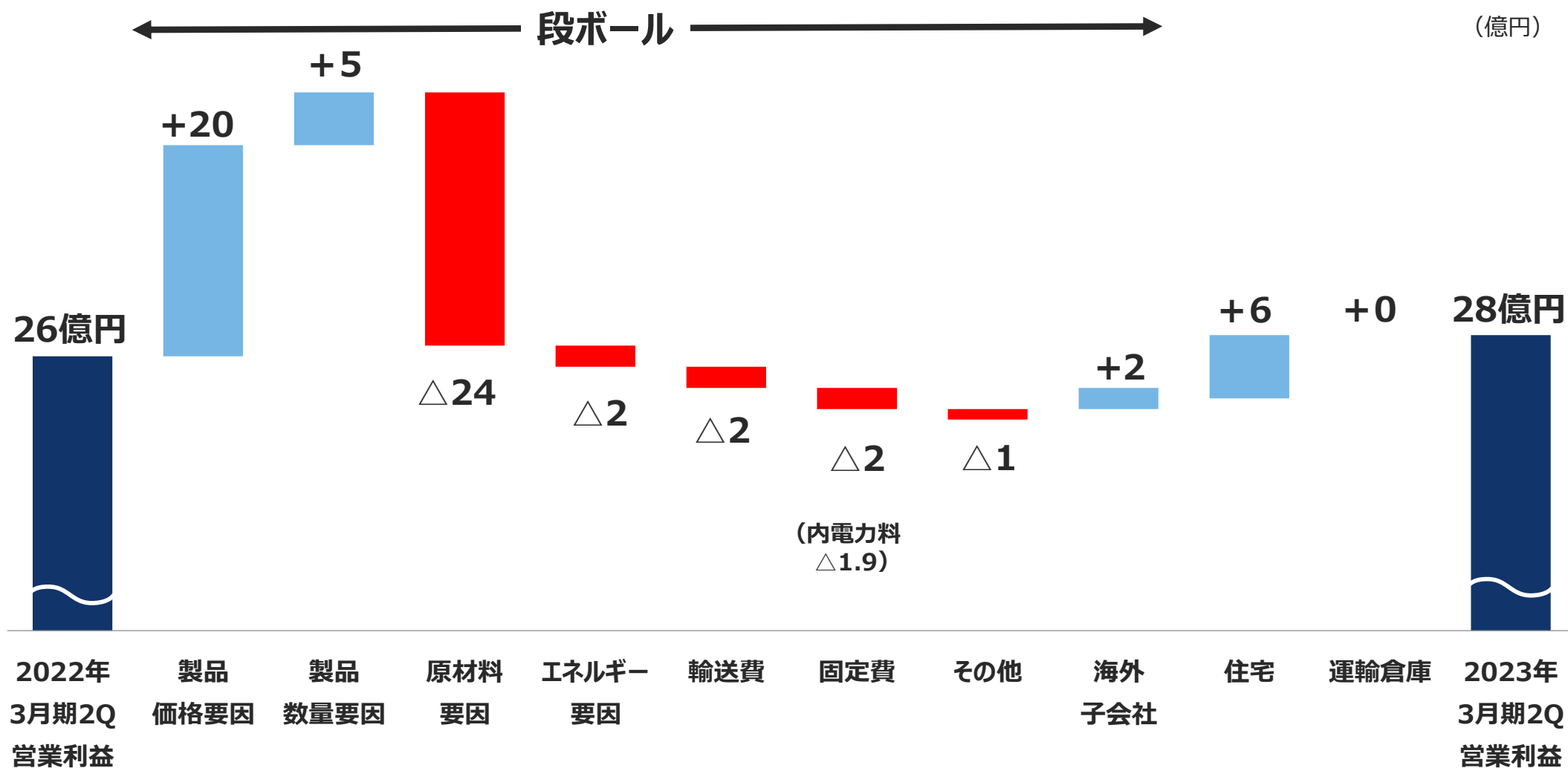
運輸倉庫：取扱数量増加効果。 住宅事業：販売棟数減少の影響。

(億円)





段ボールは上半期中は価格転嫁で原材料の上昇やコストの増加をカバーできず。  
 但し、海外子会社は、事業拡大で増益。住宅事業は、6億円増益。



原材料価格高騰などにより売上債権や棚卸資産は増加も、自己資本比率は40.7%まで上昇。

(百万円)

資産の部	2022年9月期末	前期末増減
流動資産	83,773	+2,560
現預金	13,956	△2,745
受取手形・売掛金 契約資産	31,232	+2,526
棚卸資産	25,397	+800
固定資産	108,897	+93
有形固定資産	91,055	+139
投資その他の資産	16,302	+139
資産合計	192,671	+2,653

負債の部	2022年9月期末	前期末増減
流動負債	55,504	+6,078
支払手形・買掛金	22,419	△214
短期借入金	8,899	△234
一年以内の 長期借入金	9,842	+5,971
固定負債	58,182	△6,283
長期借入金	48,171	△5,993
純資産	78,984	+2,858
(内自己株式)	(4,198)	+15
負債・純資産合計	192,671	+2,653

キャッシュ・フローの状況：前年同期比、資金活動は抑制。



原材料価格高騰などにより売上債権・棚卸資産が増加し、営業活動CFは減少。  
前期の物流センター取得など投資が一段落し、投資活動CFは縮小。長期借入金も返済。

(百万円)

	2022年3月期 1・2Q	2023年3月期 1・2Q	備考
現金・同等物 期初残高	13,813	16,568	
営業活動C F	5,560	1,344	売上債権の増加額△3,339 棚卸資産の増加額△648
投資活動C F	△12,057	△2,392	有形固定資産取得による支出△2,468 (前年同期は△10,981)
フリーC F	△6,497	△1,048	
財務活動C F	5,936	△1,981	長期借入による収入2,268 長期借入金の返済による支出△3,356
現金・同等物 期末残高	13,269	13,823	



「包む」をイノベーションする。

## 2023年3月期通期見通し



**上半期：数量・単価ともに上昇。3月からスタートした価格改定が当初見込みより若干遅れる。**

**下半期：10月から更なる価格改定。急激な原価高騰、生産・運搬コストを反映し、予定通り浸透へ。**

### 需要が増加する当社の段ボール

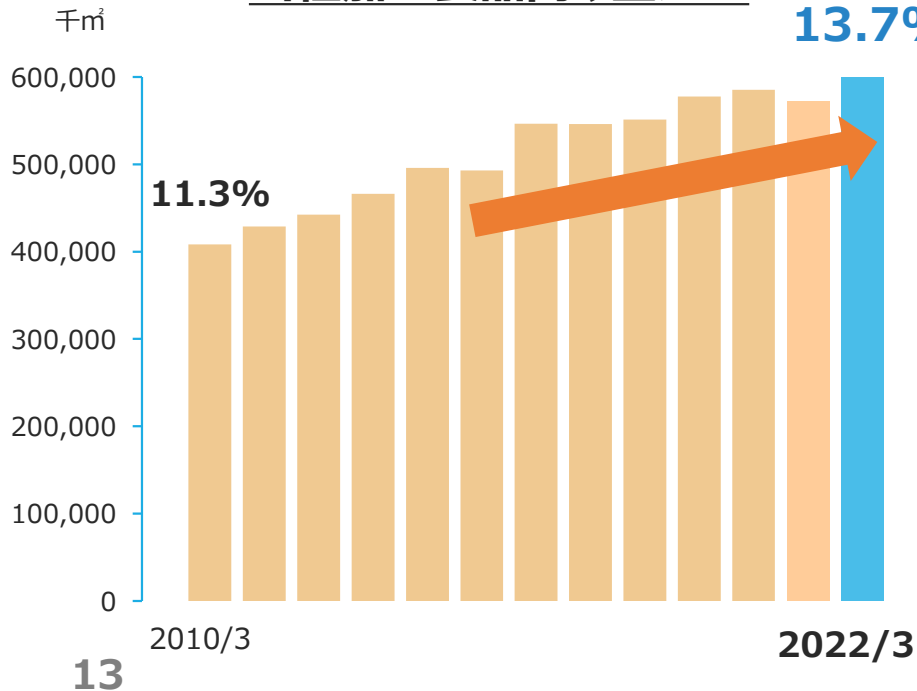
- ・段ボールは環境に優しい運搬用インフラ素材
- ・しかも、当社の主力は、  
景気に左右されない「加工食品分野」



**生産量・全国シェアは増加傾向**

### 当社加工食品向け生産量

当社シェア  
**13.7%**



+

### 価格改定必至の外部環境とその理解が浸透

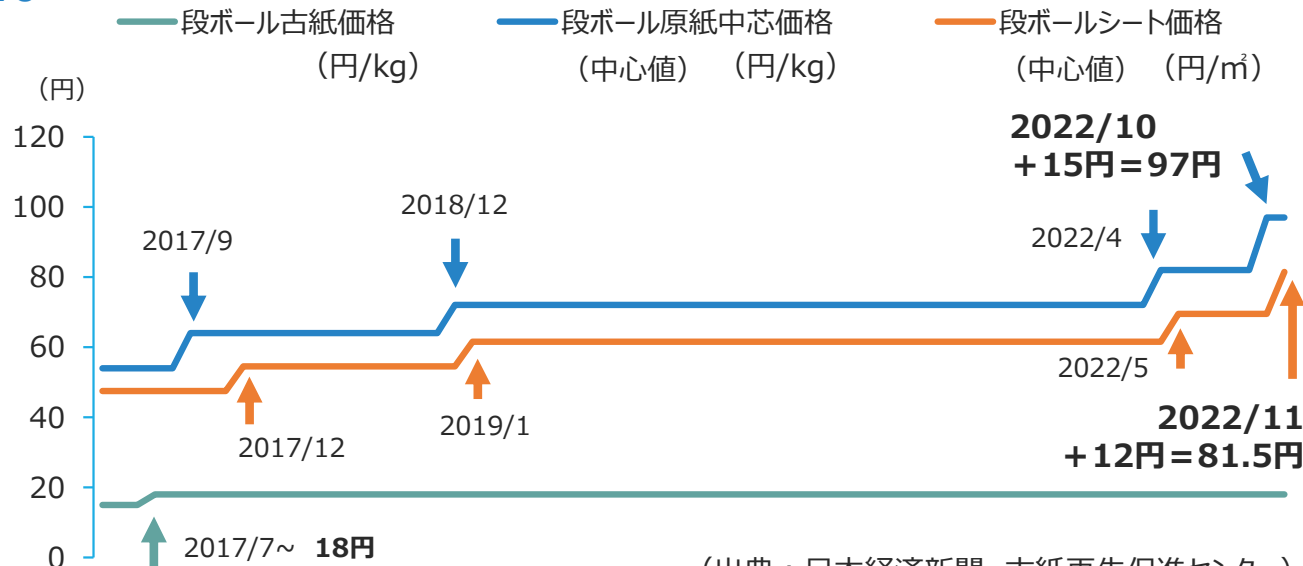
- ・段ボール原紙価格：燃料価格高騰・環境投資等で +15円/kg
- ・段ボール古紙も、海外でのサプライチェーン寸断の影響で高止まり



今回の価格改定  
(10月~)

段ボールシート価格は、現行価格 + 12円/m<sup>2</sup>以上  
段ボールケース価格は、現行価格20%以上

### 段ボール価格推移 (2017年4月~)



(出典：日本経済新聞、古紙再生促進センター)

外部環境：下期へ向けて不確定要素大きいが、段ボール価格転嫁効果が寄与へ

**段ボール事業：国内は価格転嫁効果と生産量回復効果、海外は需要拡大への生産拡大が本格的に寄与。**

**住宅事業：景況感は厳しいが、エコ及びサステナブルなスウェーデンハウスブランド効果が継続。**

**運輸倉庫事業：コロナ禍後の活動回復に備えた体制整備によるビジネス強化にインバウンド・イベント効果に期待。**

	2023年3月期上期の状況 (実績)	下期へ向けての対策 (見方)
段ボール	<p>(国内) 原材料価格高騰による価格転嫁のタイムラグ</p> <p>(海外) 米国、ベトナム好景気に支えられ復調</p>	<p>(国内) 10月からの2次値上に対する価格転嫁</p> <p>(海外) 米国、ベトナム新設備の本格稼働</p>
住宅	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリコン顧客満足度調査NO.1の訴求</li> <li>・木材価格の高騰、半導体不足の影響</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌郊外（当別町）に全173区画の分譲事業展開（スウェーデンガーデン当別太美）</li> <li>・規格商品のプラン数増による提案力強化</li> </ul>
運輸倉庫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月からの猛暑による飲料の取扱数量の増加</li> <li>・TLP札幌の本格稼働</li> <li>・燃料価格の高騰</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関西圏での宝樹運輸とのシナジー効果追求</li> <li>・トウントラフィックと関東宝樹運輸の合併</li> <li>・エネルギー価格高騰に対する価格転嫁交渉加速</li> </ul>

## 売上高二桁増の2,300億円、営業利益20%増の100億円の大台に。

(百万円)

	2022年3月期 (実績)	構成比 (%)	2023年3月期 (計画)	構成比 (%)	前期比 (%)
売上高	206,007	100.0	230,000	100.0	+11.6%
営業利益	8,331	4.0%	10,000	4.3%	+20.0%
経常利益	8,978	4.4%	10,500	4.6%	+16.9%
親会社株主帰属 純利益	5,980	2.9%	6,500	2.8%	+8.7%

原材料価格やコスト上昇あるも、期初見通し達成へ向けて、下期も引き続き全事業に注力。  
 上期進捗率は前期並みに売上高45.9%（前期46.8%）営業利益28.4%（同29.3%）。

（百万円）

	2022年3月期（実績）				2023年3月期			
	1Q・2Q	構成比 （%）	3Q・4Q	構成比 （%）	1Q・2Q （実績）	構成比 （%）	3Q・4Q （計画）	構成比 （%）
売上高	98,382 （+24.2%）	100.0	107,625 （+11.6%）	100.0	105,553 （+7.3%）	100.0	124,447 （+15.6%）	100.0
営業利益	2,641 （+82.1%）	2.7	5,690 （△1.6%）	5.3	2,842 （+7.6%）	2.7	7,158 （+25.8%）	5.8
経常利益	2,767 （+73.5%）	2.8	6,211 （+1.2%）	5.8	3,644 （+31.7%）	3.5	6,856 （+10.4%）	5.5
親会社株主 帰属純利益	1,704 （+73.9%）	1.7	4,276 （+9.4%）	4.0	2,369 （+39.0%）	2.2	4,131 （△3.4%）	3.3



**段ボール事業：価格転嫁と景気回復による生産量回復を見込む。**

**住宅事業：スウェーデンハウス中心のブランド強化で、販売棟数の増加と、値上げを想定。**

**運輸倉庫事業：コロナ禍後の飲料需要回復とインバウンド・イベント需要に期待。**

(百万円)

		2022年3月期 (実績)	2023年3月期 (計画)	前期比
段ボール	売上高	100,015	<b>112,000</b>	<b>+12.0%</b>
	セグメント利益 (利益率)	5,914 (5.9%)	<b>6,500 (5.8%)</b>	<b>+9.9%</b>
住宅	売上高	67,410	<b>75,000</b>	<b>+11.3%</b>
	セグメント利益 (利益率)	1,861 (2.8%)	<b>2,500 (3.3%)</b>	<b>+34.3%</b>
運輸倉庫	売上高	38,580	<b>43,000</b>	<b>+11.5%</b>
	セグメント利益 (利益率)	1,407 (3.6%)	<b>2,000 (4.7%)</b>	<b>+42.1%</b>
合計	売上高	206,007	<b>230,000</b>	<b>+11.6%</b>

**段ボール事業**：段ボールの価格転嫁効果で対応。**運輸倉庫事業**：燃料高騰は価格転嫁で対応。**住宅事業**：スウェーデンハウス中心のブランド強化。木材高騰ピークアウトとコスト削減で対応。 (百万円)

		2022年3月期 1Q・2Q (実績)	2022年3月期 3Q・4Q (実績)	2023年3月期 1Q・2Q (実績)	前年 同期比	2023年3月期 3Q・4Q (計画)	前年 同期比
<b>段ボール</b>	売上高	49,692	50,323	<b>55,663</b>	+12.0%	<b>56,337</b>	+12.0%
	セグメント利益 (利益率)	3,059 (6.2%)	2,855 (5.7%)	<b>2,674 (4.8%)</b>	△12.6%	<b>3,826 (6.8%)</b>	+34.0%
<b>住宅</b>	売上高	28,399	39,011	<b>28,031</b>	△1.3%	<b>46,969</b>	+20.4%
	セグメント利益 (利益率)	△1,203 (-)	3,064 (7.9%)	<b>△563 (-)</b>	+640	<b>3,063 (6.5%)</b>	±0%
<b>運輸倉庫</b>	売上高	20,290	18,290	<b>21,858</b>	+7.7%	<b>21,142</b>	+15.6%
	セグメント利益 (利益率)	1,107 (5.5%)	300 (1.6%)	<b>1,086 (5.0%)</b>	△1.9%	<b>914 (4.3%)</b>	<b>+614</b>
<b>合計</b>	売上高	98,382	107,625	<b>105,553</b>	+7.3%	<b>124,447</b>	+15.6%

配当：期初予想通り、年60円配当へ（中間配 + 3円、期末配 + 5円の合計 + 8円）



方針：「中長期成長投資」を踏まえながら、株主還元も積極化

＊2023年3月期2Q：中間28円（前年同期比+3円）

2023年3月期（予想）：年60円（+8円）：中間28円（+3円）、期末32円（+5円）

予想配当性向：2023年3月期予想で15.2%

(円)

	2019/3	2020/3	2021/3	2022/3 (実績)	2023/3 (予想)
中間	20	20	20	25 →	28
期末	20	25	25	27 →	32
記念	10				
合計	50	45	45	52	60

年間  
+8円増配



「包む」をイノベーションする。

## 成長戦略と足元の取り組み状況



## パーパス（存在意義）

「包む」を通じて、  
「包む」をイノベーションして  
社会のサステナブルな成長に貢献する。

省エネを追求する段ボール・住宅（スウェーデンハウス）  
を中心に、環境を改善しながら企業価値を高めていく。

## ミッション（使命）

お客様の大切な商品を包み、消費者の皆様にとっての価値を包み、  
人々の豊かな暮らしを包み、大切なものを包んで届ける。

## ビジョン（あるべき姿）

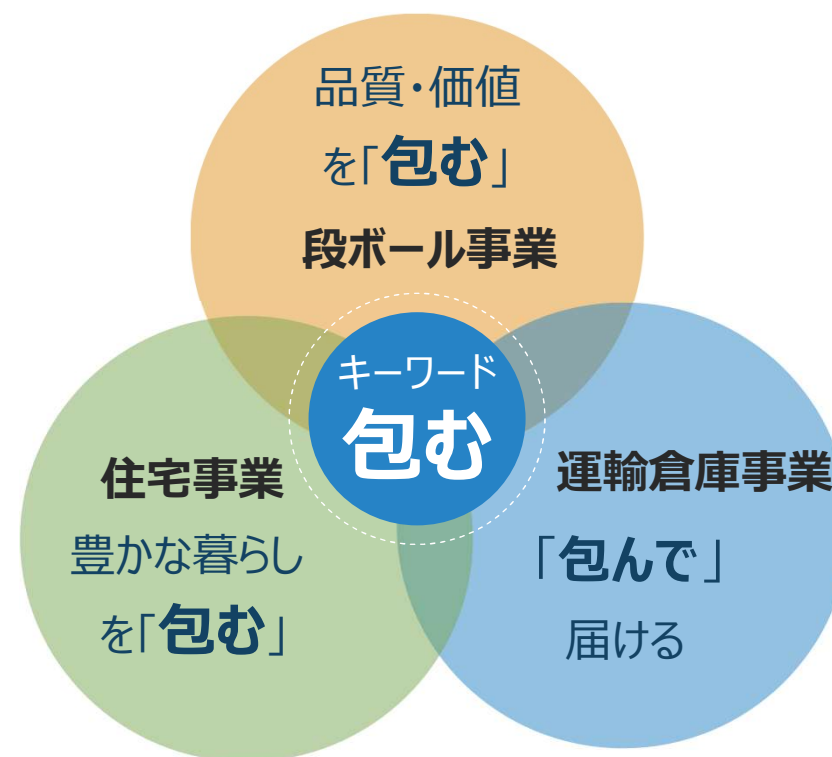
- 「段ボール」「住宅」「運輸倉庫」の3事業で「包む」をコンセプトに  
経営資源を最適に配分、付加価値を高めて  
「環境に優しい」高品質経営を展開する。
- 高い倫理観と強い責任感を持って「環境に配慮した」事業活動を通  
じて、社会の持続的発展に貢献する。
- 新たな事業の構築に取り組み企業価値の更なる向上を図る。

## 長期経営目標（2029年3月期）

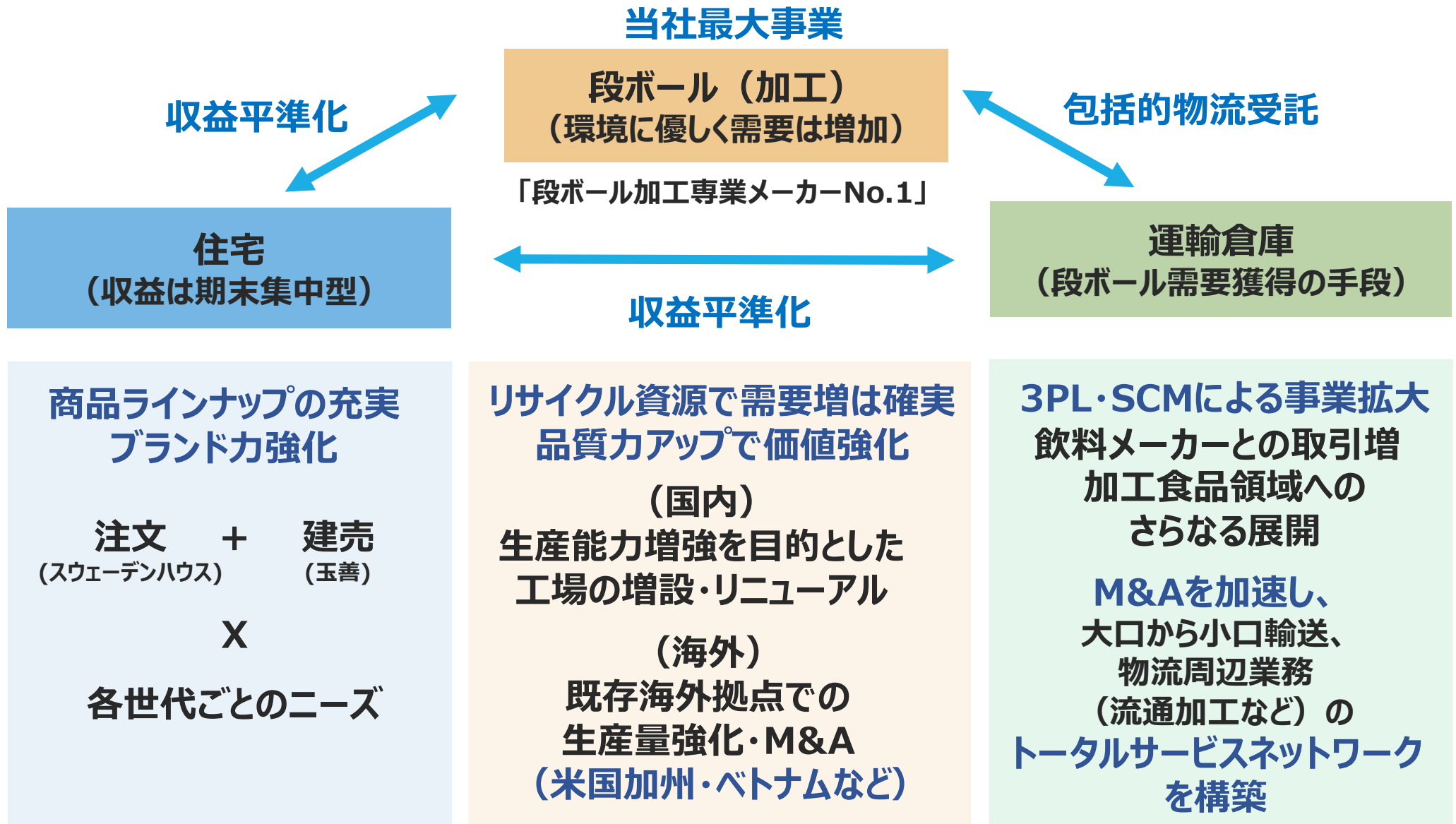
売上高 3,000億円以上

ROE 12%以上

日常を包む⇒社会のサステナブルな成長



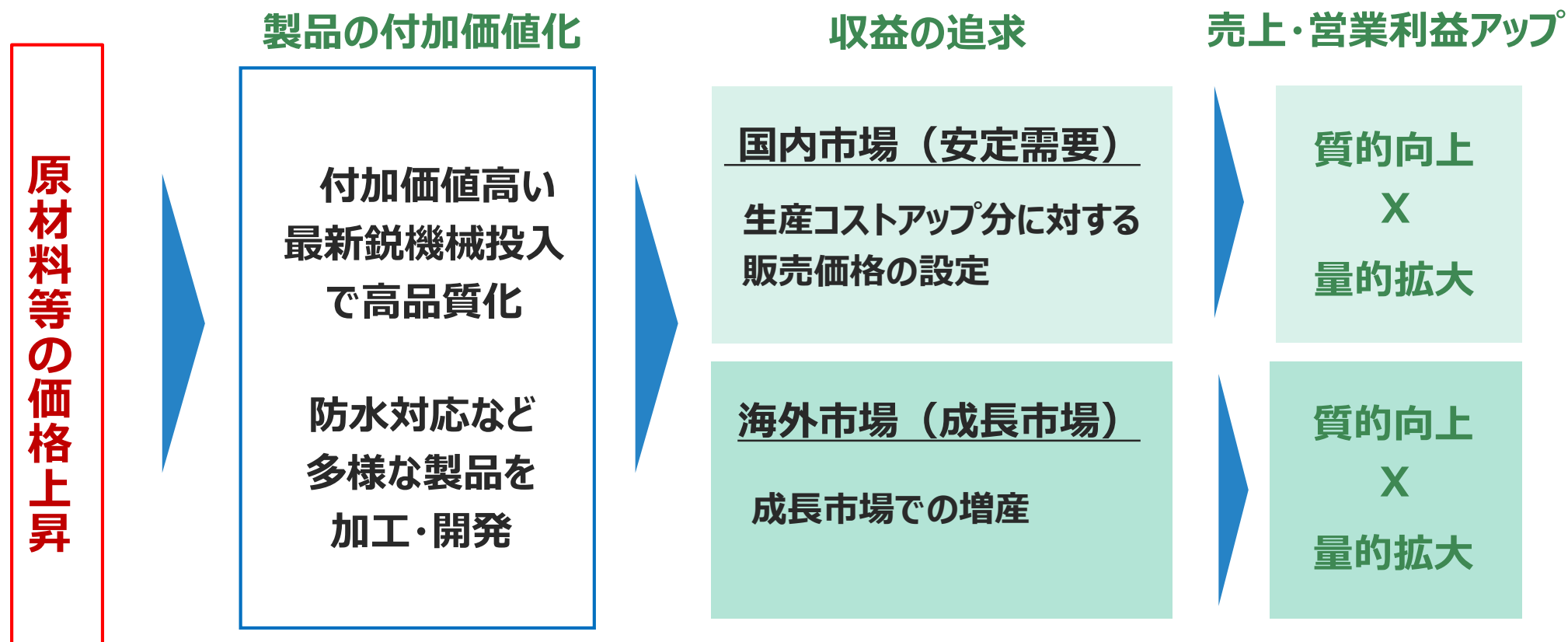
「3部門間の事業サイクル」により、「効果的な」企業価値向上を実現へ。



**当社ポジショニング**：「段ボール加工専門メーカーNo.1」 = 段ボール「加工力」No1

リサイクル可能な運搬素材として、段ボール需要の確実な増加を想定。

原材料・エネルギーコスト上昇は、価格転嫁で対応。



「段ボール加工専門メーカーNo.1」として、長期的需要を見据えて生産能力を拡大。  
付加価値の高い最新鋭機械を投入、高品質製品で、量的拡大を狙う。

## 進行中プロジェクト（2件）

### 新青森工場（増改築）

青森県青森市

（2024年1月完成予定）

投資額64億円（予定）

敷地面積33,000m<sup>2</sup>（約10,100坪）

建物面積16,700m<sup>2</sup>（約5,050坪）

### 子会社タイヨー(株) 工場用地取得

神奈川県伊勢原市

（2022年12月取得予定）

投資額43億円（予定）

敷地面積20,000m<sup>2</sup>（約6,200坪）





## 米国は魅力的な世界第2位市場

### 米国・カルフォルニア

旺盛な需要を背景に生産量が拡大

SOUTHLAND BOX COMPANY  
2021年12月落成 生産能力 2.0倍に

生産量 : +12.0% (前年同期比)

売上高 : +61.4% (同上)

## 海外段ボール事業 (2023年3月期 2Q)

景気や経済成長で段ボール需要増  
円安とコロナ禍のサプライチェーン寸断も  
需要増を後押し

売上高 : 前年同期比55.7%増、  
段ボール事業売上構成比 16.5%

営業利益 : 同44.5%増  
段ボール事業営業利益構成比 23.7%

## 米国仕様の 最新鋭機械 (TM450)



平均成長率 : 過去5年 2.8%

## 経済成長著しいASEANエリアでの需要増継続

### ベトナム・ビンズン省

コロナ禍のロックダウンが終了、収束に向かい  
日本の高品質段ボールへの需要が回復

生産量：+8.0%（前年同期比）

売上高：+42.1%（同上）

過去1年で加工機3台導入

現地工場：2014年10月落成



平均成長率：過去5年 5.8%

## 分譲住宅タウンの開発・展開

### 札幌郊外

### 「スウェーデン・ガーデン当別太美」区画販売



札幌市圏で叶える、自分らしい暮らし

**Sweden Garden** | 当別太美

札幌から最短31分、全173区画のビッグコミュニティ

### スウェーデンハウス×リゾート企業とのコラボ 那須ハイランド（栃木県那須）



## 商品プランの多様化

### 1. 平屋商品「レットナード」の限定プラン 「レットナードリミテッド2022」

**LÄTTNAD**  
Limited 2022  
レットナードリミテッド 2022



### 2. 北欧デザインのガレージハウス 「SHPガレージ」（2X4工法シリーズ）



## トウンTLP札幌センター（2021年11月オープン・北海道）

顧客（飲料メーカー）と協働で、飲料専門の物流センターを開設。

⇒ 飲料メーカーとの関係強化から運輸倉庫事業の取扱量増加（ビジネス強化）に直結。

既に2023年3月期 2Q決算に寄与



事務所棟は  
「スウェーデンハウス」仕様



お客様との関係維持・強化へ  
「協働物流センター」の開設  
を積極的に提案。

（お客様のメリット）

段ボールと  
輸送手段（トラック）を  
当社のワンストップサービスで確保

協働物流センターの開設  
をご検討のお客様が増加中。  
現在：札幌8社、群馬4社

通期見通しを前提とすると、第2次中期経営計画の成長目標は射程距離内に



**売上高2,500億円、営業利益率5.8%、ROE10%**

**(2022年3月期実績 売上高2,060億円、営業利益率4.0%、ROE8.2%)**

	2022年3月期 実績		2023年3月期 予想		第2次中期経営計画 最終年度目標 (2025年3月期)	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率
売上高	2,060億円	100%	2,300億円	100%	<b>2,500億円</b>	<b>100%</b>
段ボール	1,000億円	48.5%	1,120億円	48.7%	<b>1,250億円</b>	<b>50%</b>
住宅	674億円	32.7%	750億円	32.6%	<b>800億円</b>	<b>32%</b>
運輸倉庫	386億円	18.7%	430億円	18.7%	<b>450億円</b>	<b>18%</b>
営業利益率		4.0%		4.3%		<b>5.8%</b>
段ボール		5.9%		5.8%		<b>7.0%</b>
住宅		2.8%		3.3%		<b>4.0%</b>
運輸倉庫		3.6%		4.7%		<b>5.0%</b>
ROE		8.2%		-		<b>10%</b>

「包む」をイノベーションする。

## ご参考資料① ESG・サステナビリティへの取り組み



## グループ経営理念・方針体系

品質・価値・暮らしを「包む」

High Moral  
High Quality  
High Return

### CSR方針

環境方針

人権方針

コーポレートガバナンスガイドライン

安全衛生方針

調達方針

品質方針

持続可能な調達ガイドライン  
持続可能な木材・紙調達ガイドライン

## グループ行動基準

## サステナビリティ推進体制

代表取締役社長を委員長とするサステナビリティ委員会を設置  
サステナビリティの課題を定期的に審議し取締役会に報告

取締役会

サステナビリティ委員会

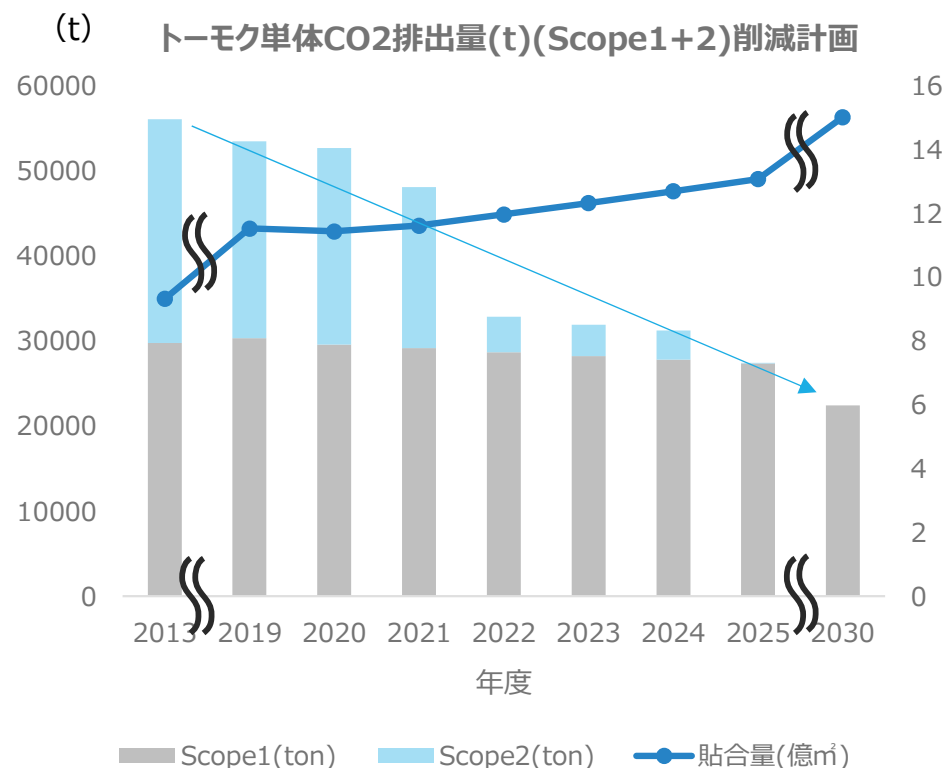
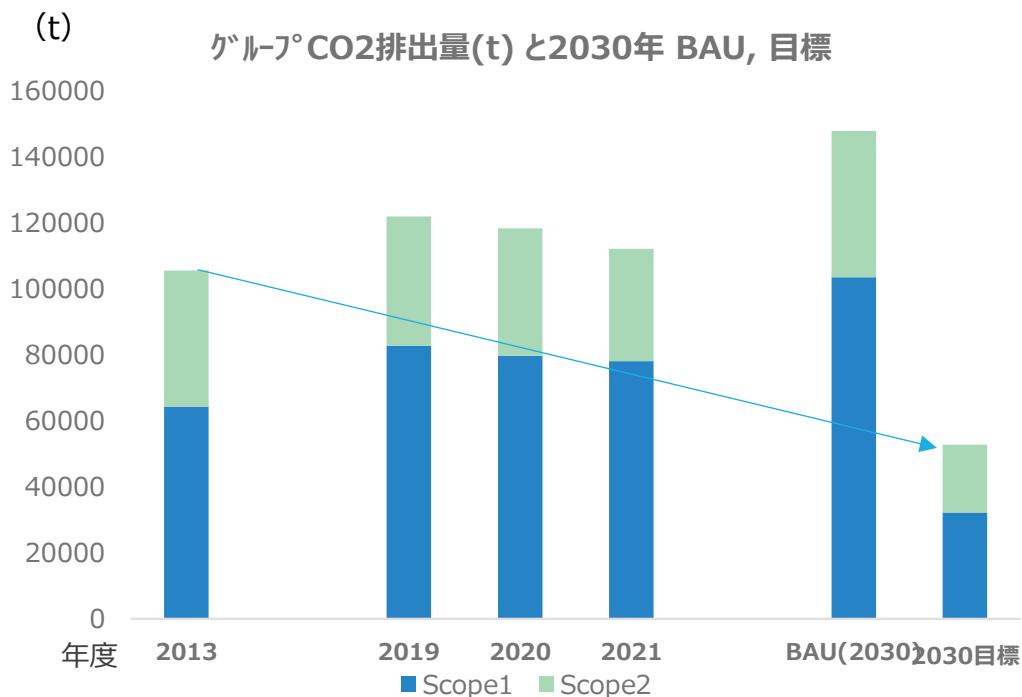
サステナビリティ検討プロジェクトチーム

TCFD開示プロジェクトチーム他

## マテリアリティ

地球環境保全 多様な人材の活躍と人権尊重 ガバナンス強化  
地域コミュニティの発展 製品やサービスの安全・安心

## 温室効果ガス（GHG）▲50%目標に向けた取組み状況及び計画



## 温室効果ガス（GHG）削減 取組状況

- 再生可能電力の導入

- ボイラー燃料の重油 ⇒ ガス化
- LED・バッテリーリフト・無人リフト

2021年3月期：トーシンパッケージ新工場導入済  
 2022年3月期：トーモク5工場、トーウンTLP群馬で導入済  
 2023年3月期：トーモク全17工場中、16工場で導入完了計画  
 11工場ガス化済、2023年3月期1工場で計画  
 2021年4月以降 順次更新

- スウェーデンハウス  
居住時のエネルギー消費量
- HUS ECO ZERO×ずっとモリラー

2021年3月期△37% ⇒ 2022年3月期△38%  
 （全着工物件の平均）  
 2020年9月8日より提供開始





## 生物多様性保全：持続可能な原材料100%に向けた取組み

### ・FSC認証原紙の購入

SAQ(Self-Assessment Questionnaire)の実施  
段ボール原紙は、原則、FSC認証＊された原紙を購入

＊FSC（森林管理協議会）認証：合法性、労働者・先住民の権利、地域社会との関係など  
広範な視点から森林管理を認証する制度

### ・森林資源の保全に配慮した住宅材購入

住宅事業（スウェーデンハウス）では、森林資源の保全に配慮した事業を展開

- ・森林資源が厳しく管理されている北欧材を使用したパネル製造・組み立て  
⇒ 森林資源・生態系保全、地球温暖化防止に貢献する住宅
- ・「木材調達方針」で持続可能な森林経営を支援
- ・木材産地や樹種等に基づく木材評価体系を作成、森林保全に配慮した購入

## 廃棄物の削減と有害物資の管理：廃棄物の有効利用率99%を目指す

サーキュラーエコノミーの潮流を認識、廃棄物削減、リサイクル化を率先して推進

### ・段ボール事業

段ボール端材は段ボール原紙に100%再利用、汚泥等の埋立処分される廃棄物を削減

### ・住宅事業

住宅建築現場での廃棄物発生を削減するため、使用パネルの改良にも工夫

地球温暖化防止

温室効果ガス削減 50% (2030年)

生物多様性保全

持続可能な原材料 100% (2030年)

廃棄物の削減と有害物質の管理※

廃棄物の有効利用率 99% (2030年)

人権の尊重

人権研修の実施 グループ従業員100%

人権DDの実施 グループ会社100%

サプライチェーン※

サプライチェーンSAQの実施

労働安全衛生

災害ゼロに向けた職場環境整備 労働災害 0件

ダイバーシティ&インクルージョン※

女性従業員比率 20% (2030年)

有給休暇取得率 70%

女性管理職比率 10% (2030年)

障がい者雇用率 3.0%

男性育児休暇取得率 100%

地域コミュニティの発展※

全工場で地域住民との交流、小中学生を対象とした社会環境教育のための工場見学会実施

※トーモク単体

## 【対象事業とシナリオ】

対象事業として、当社グループにおいて売上・営業利益の大きい国内段ボール・セグメント（トモク単体）を対象とし、2つのシナリオ（4℃シナリオ及び2℃シナリオと1.5℃シナリオの併用）を用い、2030年時点での影響を考察しました。

今後、国内外ダンボール子会社、運輸倉庫セグメント、住宅セグメントにも分析を広げ、継続してシナリオ分析を実施することで、その精度を高めていく予定です。

## 【事業インパクトのシナリオ毎分析】

2030年想定営業利益に対し、2℃、1.5℃併用シナリオでは、政府による炭素税等の規制強化や、再エネ価格上昇等による電力価格上昇によるリスクが大きい結果となりました。

化石燃料の使用削減への取組みが一層重要になります。

一方、4℃シナリオでは、洪水被害によるリスクが大きい結果となりました。BCP対応の強化が一層重要となります。

## 【機会を捉えた取組み】

プラスチック規制は、代替材としての段ボール・紙器用途を広げる可能性がありますし、循環型社会への移行は、段ボール素材の優れた環境性能への関心を高め、新たな需要が創出される可能性があります。

トモクグループは技術・デザイン開発に注力することで事業機会を捉え、企業価値の向上に努めてまいります。

ガバナンス、リスク管理、戦略、指標と目標の詳細は、ホームページ掲載の「TCFD提言に基づく情報」をご覧ください。



## ご参考資料② 会社概要など



## 段ボール事業、住宅事業、運輸倉庫事業

会社名 株式会社トーモク 英文社名 TOMOKU CO.,LTD.

事業内容 段ボール、住宅、運輸倉庫など

所在地 〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-2-2 丸の内三井ビル

設立 1949年5月27日  
**缶詰用木箱のメーカーとして北海道に設立。その後段ボール事業に転換、全国に事業拡大**

代表取締役 代表取締役社長執行役員 中橋光男

資本金 13,669百万円（2022年9月末現在）

業績 売上高 206,007百万円 営業利益 8,331 百万円（2022年3月期）

従業員数 1,106名（単体）3,754名（連結）（2022年9月末現在（臨時従業員を除く））

証券コード 3946 / 東証プライム市場、札証  
 上場市場

主要工場 17カ所 館林、岩槻、厚木、札幌、神戸、小牧など

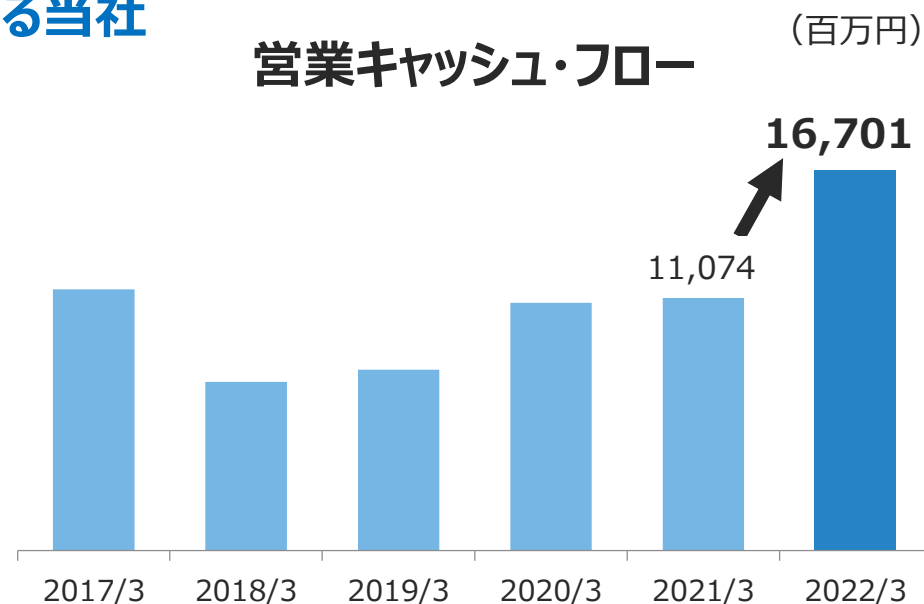
連結子会社 19社 国内16社（住宅：スウェーデンハウス、玉善など 運輸倉庫：トーウン、トーウンロジテム、宝樹運輸など）  
 海外 3社（段ボール：米国・ロサンゼルス、ベトナム・ホーチミン 住宅：スウェーデン）

## M&Aと省エネ製品（段ボール・住宅）で成長を加速させる当社

段ボール事業を主体に、住宅と運輸倉庫が事業を補完。

主力の段ボール事業を基盤に、成長が継続。  
営業キャッシュ・フローも安定的に創出かつ増加傾向。  
住宅事業も収益力を補強。収益性も改善。

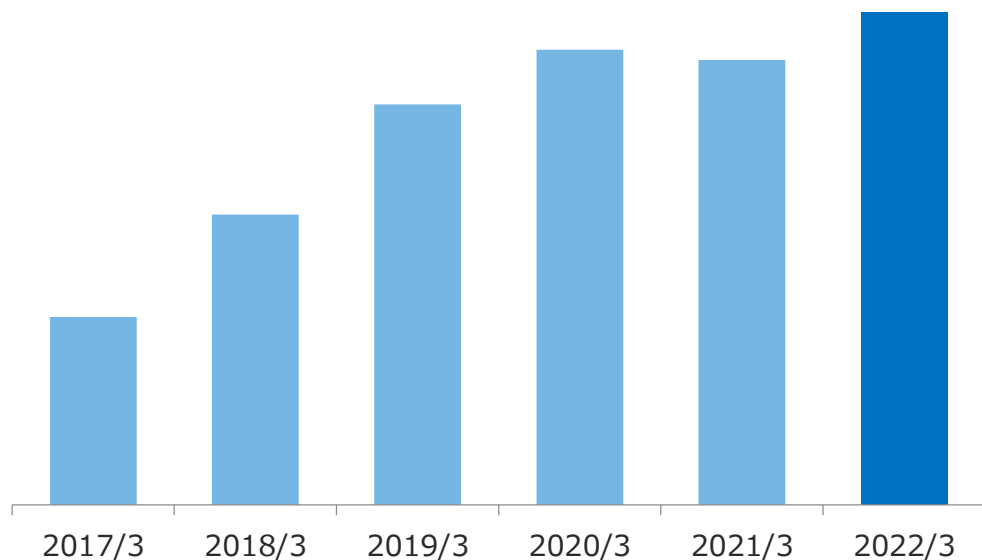
営業キャッシュ・フロー (百万円)



売上高

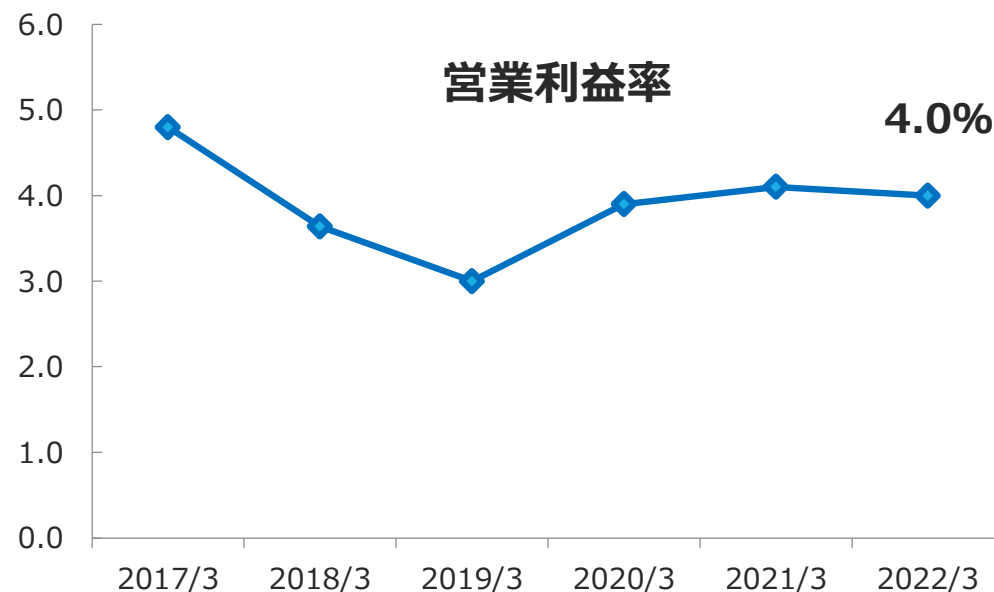
(百万円)

206,007






営業利益率

4.0%



事業の効率化・質を高める投資へ総額700億円の投資枠を設定（前中計実績434億円）  
 段ボール事業は積極的に生産設備増強へ。運輸倉庫事業は、段ボール事業との一体化投資  
 住宅事業は、住宅展示場の増設などでマーケティングを強化

	段ボール	住宅	運輸倉庫
投資枠	400億円 (海外工場含む)	50億円	50億円
目的	事業領域の拡大 国内+海外	戸建へのニーズ増へ マーケティングの強化	事業の提案力を強化 物流管理人材の育成
対象物			
効果	規模の拡大 製品品質の差別化	ブランド力の向上に よる潜在顧客の拡大	顧客との関係強化

+

主に段ボール事業でのM&Aを意識して、M&A枠200億円を設定

本資料は、当社の事業及び業界動向について当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確かさが伴っています。既に知られた、もしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2022年11月現在において利用可能な情報に基づいて、当社により2022年11月現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

# 株式会社トーモク

東証プライム：証券コード 3946

連絡先

mail:3946ir@tomoku.co.jp